

法政大學講義録

山崎, 覺次郎 / 梅, 謙次郎 / 谷野, 格 / 中村, 進午

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

1-11

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

29

(発行年 / Year)

1904-01-24



(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
每月四日五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行

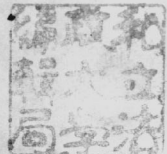
三十七年度

明治三十七年一月二十四日發行

第一學年ノ十一

法政大學講義錄

第三拾貳號



法政大學發行

第一學年第十一號目次

法學通論 (至七〇五) 法學博士 中村進午

民法總則 (自第一章 至第二章 至二〇〇) 法學博士 梅謙次郎

刑法總論 (至七八七) 法學士 谷野格

經濟學 (自九七七 至一〇四) 法學士 山崎覺次郎

雜報 ○詐害行為ニ因ル受益者及ヒ轉得者ノ善意ノ證明○講談會○昨年中ノ物價

(稟告 新年休暇ノ爲メ本誌ハ原稿不足ヲ告ケタリ)

090
1904
1-1-11

如シ... 第四說 人民カ如何ナル資格ニ於テ爲シタル行為ナルヤニ依リテ公法私法ノ區別ヲ立ツヘントノ說... 此說ハ主トシテ獨逸學者ノ採ル所ナリ例ヘハ「ザビニー」(ザルケー)ノ如キハ皆人ノ國民タルノ資格ニ關スルコトヲ定メタル法律ハ公法ニシテ人カ社會ヲ組成スル一員トシテノ資格ニ關スルコトヲ定メタル法律ハ私法ナリト曰ヘリ然レトモ此區別モ亦必スシモ判然タラス何トナレハ或行為カ國家ノ一員トシテ爲サレタルヤ社會ノ一員トシテ爲サレタルヤハ其標準ヲ見出スニ難ケレハナリ加之國家ノ秩序ニ關スルコトカ併セテ社會ノ秩序ニ關スルコトアルヘキヲ以テナリ例ヘハ殺人ノ行為ノ如キハ國家ヨリ觀ルモ社會ヨリ觀ルモ共ニ其秩序ヲ害セラレタルモノナルヘシ

第五說 權力關係ヲ定メタルモノハ公法ニシテ權利關係ヲ定メタルモノハ私法ナリトノ說

權力關係トハ國家カ人民ヲシテ自己ニ服從セシムルコトヲ意味シ權利關係ト

ハ他ニ對シテ併立ノ關係ヲ有シ服從スルコトナキモノヲ謂フ凡テ權利ハ國家ノ權利ニ因リテ始メテ發生スルモノナリ權力ヲ離レテ權利義務ノ關係ノ生スルコト能ハサルハ明カナリ然ラハ權利ト權力トハ實質上同一ナルモノナリ然ルニ此二者ヲ標準トシテ公法私法ノ區別ヲ立テラントスルハ穩當ニ非ス加之若シ服從ノ關係ヲ定メタルモノヲ以テ公法ナリトセハ家族カ戸主ニ服從スルコトヲ定メタル法律モ妻カ夫ニ服從スルコトヲ定メタル法律モ雇人カ雇主ニ服從スル關係ヲ定メタル法律モ皆公法ト爲ルヘシ又對立の關係ヲ定メタル法律ヲ以テ私法ナリト言ハハ選舉ニ關スル事ヲ定メタルモノモ亦私法ナリト謂ハサルヘカラス

第六節 國內法及ヒ國際法

國內法及ヒ國際法ノ區別ハ國法以內ノ區別ニ非スシテ法律全體ノ上ヨリ觀タル區別ナリ國家カ國家ノ内部ニ關スルコトヲ定メタルモノハ國內法ニシテ一ノ國家ト他ノ國家トノ關係ヲ定メタルモノハ國際法ナリ所謂國際法ナルモノ

ニ國際公法ト國際私法トノ別アリ國際公法トハ國家ト國家トノ間ノ關係ヲ定メタル法律ナレトモ國際私法トハ箇人ニ關スル行爲ニ何レノ國ノ法律ヲ適用スルヤヲ定メタル法規ナリ或學者カ國際私法ハ國際法ニ非スシテ國內法ナリト言フハ此點ヨリ立論シタルモノナリ

第八章 法律ノ淵源

法律ノ淵源ナル語ハ種種ノ意味ニ用ヒラル例ヘハ法律ハ何人ヨリ作ラレタリヤヲ法律ノ淵源ナル意味ニ用フル者アリ此意味ニ依レハ法律カ神ヨリ作ラレタルカ君主ヨリ作ラレタルカ人民ヨリ作ラレタルカト云フコトカ法律ノ淵源ナル意味ニ歸スヘシ又法律ノ淵源ヲ法律關係ノ原因ト同一視スル者アリ例ヘハ契約ヲ以テ法律ノ淵源ナリト言フ者アルカ如シ然レトモ法律ノ淵源ト法律關係ノ原因トハ全ク別物ナリ若シ法律カクンハ契約アルモ權利義務ノ關係ヲ生スルコトナカルヘケレハナリ故ニ茲ニ法律ノ淵源トハ法律カ發生スル材料ト云フノ意味ナリ此意味ニ於テ法律ノ淵源ト爲ルモノハ慣習學說條理條約判

決例、宗教、外國法ノ七者ナリ

第一 慣習

慣習トハ人民ノ行為ノ標準ニシテ長キ時ノ間之ニ違背スルコトナキモノヲ謂フ。茲ニ所謂人民トハ一箇ノ人民ヲ意味スルモノニ非スシテ一般ノ人民ヲ指スモノナリ。如何ニシテ慣習カ成立スルヤハ猶ホ如何ニシテ法律カ成立スルヤト同一ノ問題ニ歸スヘシ。蓋シ慣習モ法律モ共ニ箇人ノ生存ヲ維持セシカ爲メニ發生スルモノナレハナリ。ブルンス「カ」慣習ノ發生スルハ各箇人カ自己ノ行為ノ自由ヲ内部ノ必要ニ連結セシムルヨリ出テタルモノナリト言ヘルハ即チ是ナリ。慣習ハ如何ニ長ク行ハルルモ是レ唯慣習トシテ行ハレタルニ過キサルカ故ニ長ク行ハレタリトノ理由ヲ以テ法律ト爲ルモノニ非ス。

慣習ニハ一般慣習ト局部慣習トアリ而シテ此區別ハ又人ニ關スル一般慣習局部慣習土地ニ關スル一般慣習局部慣習ノ二者ト爲スコトヲ得例ヘハ商慣習ノ如キハ商人ノ行フ慣習ニシテ婚姻ニ關スル或地方ニ限レル慣習ハ土地ニ關スル局部慣習ナリ。

尙ホ慣習ヲ形式ニ依リテ區別スレハ成文慣習不文慣習ノ二者ト爲スコトヲ得此區別ハ慣習カ文書ニ記載セラレタルト否トヲ標準トシテ立テタルモノナリ。然レトモ慣習カ單ニ慣習トシテ記載セラレタルニ過キサルハ之ヲ慣習法トシテ法律タルノ效力ヲ有セシメントスルニハ特別ノ手續ヲ踐マサルヘカラス。慣習カ如何ニ永ク繼續スルモ之ニ因リテ法律ト爲ルコト能ハサルハ既ニ述ヘタル所ナリ。是ニ於テ慣習ハ何時ヨリ法律ト爲ルヤノ問題ヲ生ス而シテ此事ニ關シテハ種種ノ學說アリ其最モ重ナルモノヲ列舉セハ左ノ如シ。

第一說 慣習カ或條件ヲ充タストキハ之ニ由リテ法律ト爲ルヘシトノ說
 此說ハ多數學者ノ唱フル所ナリト雖モ未タ其所謂條件ニ關シテ一致シタルコトヲ聞カス但英國ノ如キハ左ノ條件ヲ充タスコトニ由リテ慣習ノ法律ト爲ルヘシト定メタリ。

- 一 古ヨリ行ハレタルコト
- 二 繼續シテ行ハレタルコト
- 三 争又ハ疑ナク行ハレタルコト

四 確定シタルコト

五 強制力ヲ有スルコト

六 條理ニ適スルコト

七 法律又ハ他ノ慣習法ニ背カサルコト

此七箇ノ條件ヲ充タスニ由リテ慣習カ法律ト爲ルヘシト定メタルハ英國ノ法律ノ明示スル所ニ非スシテ裁判例ノ定メタルモノナリ。獨逸ノ學說トシテ此事ヲ論議シタルモノ極メテ多シ其第一トシテ「デルンブルヒ」ノ說ク所ヲ舉クレハ左ノ如シ

一 同一ノ行爲アリタルモノナラサルヘカラス

二 多年ノ慣習ナラサルヘカラス而シテ其年數ハ裁判官ノ決定ニ依ルノ外ニ定メザル

三 法律上ノ慣習ナラサルヘカラス

四 此慣習ハ必スシモ人民ニ己ノ慣習ナルコトヲ要セス故ニ團體ノ慣習モ亦慣習法ト爲ル

私ノ私法上ノ關係外國人ノ私法上ノ關係若クハ契約ニ關スル法律關係ハ如何ニ定メラルルカト云フ問題デアルカラ矢張り私ハ二國以上ノ人民相互ノ關係ヲ定ムルモノデアルト斯ウ云ハナケレバナラヌト思フ若シテウ見レバ矢張り私法デアルト謂ハナケレバナラヌ如何ナル法律ヲ適用スルカト云フコトハ或事實ノ生ジタル場合ニ民法ノ規定ヲ適用スルカ、商法ノ規定ヲ適用スルカト云フコトモ同ジコトデアルト思フ民法モ私法デアリ商法モ私法デアル以上ハ其問題モ矢張り私法ノ問題ト云ハナケレバナラヌ即チ日本ノ民法ヲ適用スルカ、英吉利ノ民法ヲ適用スルカト云フナラバドテラデアラモ私法デアルカラ國際私法ト云フモノモ私法デアルト云フ方ガ穩デアルト思フ勿論公法說ヲ取ル人ハ國際私法ト云フ名稱ヲ大變嫌フノデアアルガ私ハ此名稱ヲ左マデ嫌フベキ理由ハナイト信ズル

第四節 實體法、形式法

民法總則 緒論 法律ノ類別 實體法、形式法

實體法、形式法ノ區別ハ法律ノ内容カラ爲ス所ノ區別デア
第一 實體法

一名之ヲ原則法ト云ヒマス、定義ヲ下スナラバ「實體法」トハ權利義務ノ主體、客體
及其發生消滅ヲ規定スル法律デアルト云ツテ宜カラウト思フ、如何ナル人ガ所
有者デアルカ、又所有權ノ目的ナルモノハ如何ナルモノデアルカ、ソレハ如何ナル
原因ニ由テ發生スルカ、如何ナル原因ニ由テ消滅スルカト云フヤウナコト
ハソレハ實體法ノ規定デアル、是マデ御話ヲ致シタ法律ノ中デ例ヘバ憲法、刑法、
民法、商法ナドト云フモノハ概シテ是ハ實體法ノ規定デアル、中ニ多少ノ手續法
若クハ形式的規定ハアリマスケレドモソレハ例外デ、概シテ皆實體法デアルト
云ヘル也

第二 形式法
形式法ハ或ハ手續法ト稱スルノデアアル、定義ヲ下セバ「權利行使、義務履行ノ手續
ヲ規定スル法律デアルト謂ハチバナラス、例ヘバ議院法、各種ノ選舉法、行政裁判
法、訴訟法、刑事訴訟法、民事訴訟法、人事訴訟手續法、非訟事件手續法、破産法、競賣法

供託法、戶籍法、不動産登記法、船舶登記規則ナドト云フモノハ全部手續法デア
トハ申シマセスケレドモ、主トシテ手續法デアル、ナドト云フモノハマシマス
此實體法形式法ノ區別ノ實用ガ二ツアル、第一ハ立法ノ方針トシテ成ルベク實體法ト形式法トヲ區別スル方ガ便利デア
ル、是ハ幼稚ナル法律ニ於テハ大抵一緒ニ爲テ居ル、羅馬ノ「ジュスタニヤン」法典
ニ於テハ固ヨリ實體法ト形式法トノ區別ハナイ、又近クハ「プロエセン」ノ「ランド
レヒト」(プロエセン)「國法」トカ或ハ「普通國法」トカ申シマス)ナドデハトント其區
別ハナク、實體法モ形式法モ併セテ一緒ニ規定シテアル、佛蘭西ノ法典ハ此等ニ
較ベルト稍ヤ進歩シテ居テ、大體民法ハ實體法デアアル、民事訴訟法ハ形式法デア
ル又刑法ハ實體法デアラ、刑事訴訟法ハ形式法デアアルト云フ風ニ實體法ト形式
法トヲ分ツタノハ蓋シ佛蘭西法典ガ初デアラ、ダラウト私ハ思フ、ソレヨリシテ歐
米各國ニ於テ法典ヲ編纂スル場合ニハ常ニ實體法ト形式法トヲ區別スルノ
ヲ普通トシテ居ル、是ハ理論上其當ヲ得テ居ルノミナラズ實際ニ於テモ便利ガ
多イノデアアル、併ナガラ法典其他一國ノ法律ハ必ズシモ學理ニノミ由ル譯デナ

イカラ此實體法、形式法ノ區別モ絕對的標準ニハナラヌ即チ民法ト云ヘバ先ヅ實體法デアルト謂ハナケレバナラヌケレドモ中ニ多少ノ形式法ヲモ包含シテ居ル、佛蘭西民法ヲ首ト致シテ歐米諸國ノ法典ハ皆サウデアリマスガ、我邦ニ於テモ舊民法ノ如キハ餘程形式法ヲ含シテ居ラ、新民法ハ之ニ較ベルト形式法ニ屬スル規定ガ少イ、併シ全クナイト云フ譯ニハイカス、嚴分カハ含シテ居ル、是ハ實際上ノ必要ヨリ已ムコトヲ得ナイノデアアル併ナガラ大體ニ於テ立法ノ方針トシテ實體法ト形式法トヲ區別スル必要ガアルノデアアル

第二ニ於テハ法律ノ解釋ノ上ニ於テ形式ニ關スル問題ニ付テハ若シ主トシテ實體法ニ屬スル法律ト主トシテ形式法ニ屬スル法律ト合ハナイコトガアッタラバ言葉ヲ換ヘテ言ヘバ、解釋上疑ハシイ場合ガアッタナラバ寧ロ主トシテ形式法タル法律ニ從ハナケレバナラヌ、例ヘバ訴訟上ノ問題ニ付テ民法ノ規定ト民事訴訟法ノ規定ト多少抵觸スルモノガアレバソレハ寧ロ民事訴訟法ノ規定ニ依ラナケレバナラヌ、是ハ新法典ニ於テハ殆ド必要ノナイコトノヤウデアリマスケレドモ舊法典ニ付テハ最モ必要デアッタ、民法ノ規定ト民事訴訟法ノ規定ト抵

觸シテ居ルコトガ甚ダ多クッタノデアアルカラ其場合ニハ尙モ形式ニ關スル問題デアル以上ハ常ニ民事訴訟法ノ規定ニ依ラナケレバナラナカッタノデアアル以上ニテ實體法、形式法ノ御話ヲ了リマシタ

第五節 普通法、特別法

此普通法、特別法ノ區別ハ二様ニ觀察シナケレバナラヌ第一ハ法律ノ内容ヨリシテ爲ス區別デアアルシ、第二ハ法律ノ效力ヨリシテ爲ス所ノ區別デアアル

第一 法律ノ内容ヨリスル區別

此意味ニ於ケル普通法ハ又一般法トモ申シマスルガ、學者ニ依ッテハ本則法トモ云フ、其定義ヲ示スナラバ一般ノ事物ヲ規定スル法律デアルト、斯ウ云ハナケレバナラヌ、非常ニ漠然タルモノデアッタ其意味ガ頗ル不明デアアルヤウデスガ、元來此種類ノ法律ソレ自身ガ漠然タルモノデアアルカラ已ムコトヲ得ナイ尤モ絕對的普通法ト云フモノハ殆ド無イト云ツテ宜イ位デス、法律ハ大抵或目的ヲ持ッテ居ル、其目的ガ必ズ一定ノ範圍ヲ持ッテ居ル、マルキリ限ラレタル範圍ガナイト云フ

法律ハ殆ド想像スルコトガ出來ヌ、ソレデ寧ロ是ハ相對的ノモノデアアル例ヘバ
 商法ニ對シテ民法ハ普通法デアアルト云フ、即チ私法ニ於テハ特別ノ規定ナキ限
 リハ民法ガ適用セララル、併ナガラ商事ニ關シテハ民法ヨリモ寧ロ商法ヲ適用
 シナケレバナラヌト云フコトガアル、故ニ民法ハ絕對的普通法デアアルト云フコ
 トハ申サレマセスケレドモ商法ノ適用ノナイ範圍ニ於テハ大抵民法ガ適用セ
 ラレマスカラ此點ニ於テハ民法ハ普通法デアアル、或ハ又民法中ノ契約各論ニ對
 スル契約總論ト云フモノハ普通法デアアル、即チ契約各論例ヘバ贈與、買賣、貸借
 等ニ關スル特別法ノ適用セララル場合ヲ除イテハ總テノ契約ニ總論ノ規定ガ
 概ル、ソレ故ニ契約ノ總論、總則ハ則チ普通法ト云ヘル
 次ニ特別法。是ハ場合ニ依ッテ單行法トモ云ヒ又例外法トモ云フ、定義ハ「限定セル
 事物ノミヲ規定スル法律デアアル、今申上ゲタ如ク特別法ト云フ名モアリ、單行法」
 ト云フ名モアリ、又例外法ト云フ名モアルガ、是ハ全ク同ジモノデハナイ、單行法」
 ト云フノハ普通ニ法典ニ對シテ謂フ、法典ガ普通法一般法デアラ、ソレニ對シテ
 單行法ト云ヒマスカラ、或狹キ範圍ノ事項ヲ規定シタル法律デアラ、法典ノ如ク

廣キ範圍ノモノデナイ、而シテ單行法ノ名ハ一部ノ事柄ヲ獨立ニ行フト云フ方
 カラ來テ居ル、隨テ特別法トハ少シ範圍ガ違フ例ヘバ民法ニ對シテ商法ヲ特別
 法ト云フ、併ナガラ商法ハ所謂單行法デハナイ、明治二十六年ニ施行セラレタ商
 法ノ規定ノ前ニ爲替手形約束手形條例ト云フモノガアッタ、此等ハ疑モナキ所ノ
 單行法デアアル手形式ケノコトヲ特ニ規定シタノデスカラ……併ナガラ商法ハ
 今申シタ通り特別法デハアルケレドモ單行法デハナイ
 抑テ又例外法ハ一般ノ規定ニ反スル事ヲ規定シタルモノデアアルガ、ソレノミヲ
 規定シタル法律ハ減多ニナイ、例ヘバ刑法ニ對シテ決闘ニ關スル法律ナドハ例
 外法ト云ヘルカモ知レマセスケレドモ、ソレモ疑問デアアル、例外法ト云フモ例外
 ノ規定ノミヲ包含シテ居ル法律ト云フモノハ減多ニナカラウト思フ、唯或規定
 ガ例外法ニ屬スルト云フコトハ幾ラデモアル、特別法ト云フノハ必ズシモ例外
 法デハナイ、例ヘバ契約ノ總則ニ對スル各論ハ特別法デアアルコトハ疑ナイ、デ
 ケレドモ必ズシモ例外法デアアルトハ云ヘナイ、何トナレバ其中ニ契約ノ總則ノ
 適用ニ過ギナイコトモ幾ラモアル、デスカラ悉ク例外法デアアルトハ云ヘナイ隨

テ特別法單行法及ビ例外法ト云フモノハ多クノ場合ニ於テ同一デアレケレドモ全ク同一デハナイ

以上ハ法律ノ内容ヨリスル所ノ普通法特別法ノ區別デアアル

第二 法律ノ效力ヨリスル區別

此意味ニ於ケル普通法ハ一國ノ如何ナル土地及ビ如何ナル人ニモ一般ニ適用スベキ所ノ法律デアアル例ヘバ憲法ノ如キハ是デアアル我邦ニ於テハ我邦ノ如何ナル領土ト雖モ又如何ナル臣民ト雖モ皆憲法ニハ服從シナケレバナラス故ニ憲法ハ此意味ニ於ケル普通法デアアル尤モ臺灣ニ憲法ガ行ハルルキ否ヤト云フコトハ疑問ト爲ラテ居ル併ナガラ私ハ臺灣ニモ憲法ガ行ハレテ居ルト思フソレハ理論ニ於テ然ラザルコトヲ得ナイト思フ臺灣ガ我領土デアルト云フコトガ疑ナイ以上ハ日本國ノ憲法ガ日本國ノ領土ニ及バヌト云フ爲メニハ何カ明カナル規定ガナケレバナラスヲウ云フモノハナイ成程反對論者ハ憲法制定當時ニ在ラテハ臺灣ハ我領土デナカッタ隨テ憲法ノ制定セラレタル當時ニハ臺灣ハ眼中ニナカッタノデアアル故ニ其適用ガナイト云フコトヲ申シマスケレドモ

ソレハ誤ラテ居ルト思フ凡ソ法律ト云フモノハ其制定當時ニ存シテ居ラタ事柄ニ依リテ適用セラレベキモノデハナイ先ヅ人ニ付テ云ラモ法律制定ノ當時ニ國民デナカッタ者ガ段段國民ト爲ル管ニ出生ニ依ラテ新シイ國民ガ出來ルノミナラズ歸化其他ノ原因ニ由ラテ國民ハ増加スルソレニ前ニ制定セラレタル法律ガ適用セラレヌト云フ説ハ曾テ唱ヘラレタコトハナイ又法律ノ適用セラレベキ目的物ニ付テモ其通りデアアル試ニ茲ニ車ニ關スル規定ガアルト致シマス其車ハ法律制定ノ當時ニハ人力車、馬車、荷車等デアッタト致シテ自轉車ト自動車ガナカッタ時代ト致シテモ荷車ニ關スル規定デアアル以上ハ自轉車、自動車ナドガ新ニ出來レバ矢張り之ニ適用セラレナケレバナラス建物ニ關スル法律ガ假ニ木造ノ建物シカナイ時ニ出來タ所ノ法律デアッタ所ガ後ニ石造煉瓦造ナドノ建物ガ出來テモ單ニ建物ト云ヘバ矢張り之ニ適用セラレナケレバナラスソレト同ジコトデアアル成程日本ノ版圖ハ當時臺灣ト云フモノヲ含ンデ居ラナカッタ併シ日本全體ノ法律タル憲法デアアル以上ハ臺灣ガ日本ノ領土ト爲ラタ以上ハ矢張り是ニモ適用セラレルト云フコトハ當然デアアル尤モ我邦ハ欽定憲法ノ國デア

ヲ、即チ帝室ガ任意ニ御定メニ爲ラタ所ノ憲法デアルカラ臺灣ガ日本ノ領土ト爲
ル際ニ其臺灣ニハ憲法ヲ施行セスト云フ詔勅デモ出タラバ或ハ憲法ガ臺灣ニ
及バヌト云フコトガ出來ルカモ知レスガナウ云フコトモ實際ナカラタ然ラバ學
者ハ何ト云ハウトモ政治家ハ何ト云ハウトモ自ラ憲法ハ臺灣ガ我版圖ニ歸シ
タ時カラ行ハレテ居ルモノト云ハナケレバナラヌト私ハ思フ、況ヤ明治二十九
年法律第六十三號ヲ以テ臺灣ニ關スル法制ノ例外規定ガ出來タ、其重モナル規
定ハ臺灣ニ於テハ臺灣總督ガ或條件ノ下ニ法律ニ均シキ效力ヲ有スル命令ヲ
發スルコトヲ得ルト云フ規定ガアル、次ニハ内地ノ法律ニシテ臺灣ニ施行スベ
キモノハ特ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ムル、其他ハ臺灣ニハ施行セラレヌト云フコト
ヲ定メタモノデアル、此法律ハ矢張り他ノ法律ト同ジヤウニ帝國議會ノ協贊ヲ
經テ天皇ガ御裁可ニ爲リ、且ツ公布セラレタル所ノモノデアアル、若シモ憲法ガ臺
灣ニ行ハレナイナラバ斯様ナル手續ハ全ク不用デアアル、法律ハ帝國議會ノ協贊
ヲ經ベシト云フノハ内々次クノコトデアアル、故ニ臺灣ニ於テハ總督府ガ勝手ニ
法律ヲ制定シヤウトモ其以下ノ官吏ガ勝手ニ法律ヲ定メヤウトモ、苟モ天皇ノ

意思ニ反セザル限リハ差支ナイト云ハナケレバナラヌノデアアル、又憲法ヲヘモ
行ハレヌ位ナラバ内地ノ爲メニ制定シタル所ノ法律ガ臺灣ニ行ハルベキ管ハ
ナイカラ憲法法律ヲ以テ内地ニ於ケル法律ガ勅令ヲ以テ臺灣ニ施行セザル限
リハ臺灣ニ於テハ適用ガナイト云フコトヲ定メル必要モナイノデアアル、又其必
要アリトシテモソレヲ帝國議會ノ協贊ヲ經タル法律ヲ以テ定メルト云フコト
ハ實ニ謂レノナイコトデアアル、然ルニ明治二十九年ニ此ノ如キ法律ハ出來テ居
ル是ハ取リモ直サズ此法律ガナケレバ憲法ノ當然ノ結果トシテ臺灣ニ施行ス
ベキ法律モ帝國議會ノ協贊ヲ經ナケレバナラヌ、又一般ニ制定セラレタル所ノ
法律ハ自ラ臺灣ニモ施行セラレルベキデアアルト云フコトヲ前提シテ居ルカラデ
アル、要スルニ此二十九年法律第六十三號ト云フモノハ若シモ憲法ガ臺灣ニ行
ハレテ居ラヌト云フナラバ實ニ意味ノナイ法律デアアル、是ニ由テ之ヲ觀レバ
當時ノ立法者モ矢張り我我ト同ジヤウニ憲法ガ臺灣ニ行ハレテ居ルト云フコ
トヲ認メテ居ラタニ違ヒナイト私ハ思フ、之ヲ要スルニ憲法ハ我邦ノ如何ナル
土地又如何ナル人ニ對シテモ行ハルル所ノ法律ニシテ、是ハ絕對ノ普通法デア

ルト云テ宜シイ、併シ絕對ノ普通法ト云フモノハ種々稀デアル憲法サヘモ議論ノアル位デスカラ外ニハ殆ド其例ハナイ成程法例ト云フモノハ臺灣ニ施行スルト云フコトニ勅令デ爲テ居ルダカラ此等ハ實際ニ於テ絕對ノ普通法デアルト云ヘマスケレドモ、サウ云フコトハ少イ、多クハ普通法ト云テモ相對的デアル例ヘバ臺灣ノ諸法令ニ對シテ内地ノ法令ト云フモノハ即チ相對的普通法デアル、民法デモ商法デモ皆サウデアル、ソレカラ地方制度ニ於テ北海道區制、北海道一級町村制、北海道二級町村制ナドト云フモノガアル、ソレカラ沖繩縣區制、ソレカラ矢張り沖繩縣ニ間切規程ト云フモノガアル、サウ云フモノニ對シテ一般ノ市制、町村制ガアル、ソレハ則チ相對的普通法デアル、ソレカラ皇室典範及ビ華族令ニ對シテ民法ハ普通法デアル、即チ民法ハ皇族ニハ適用ガナイ、是ハ多少疑問デアラウト思フ、併シ今日ノ皇室典範ノ解釋ニシテハソレガ穩當デアラウト思フ、サウスルト民法ハ絕對的普通法デハナクシテ相對的普通法デアル、ソレカラ又華族令ニ對シテハ民法ハ矢張り華族ニモ適用ガアル、併シ華族令ノ規定ハ普通人ニ適用ガナイノデスカラ其點カラ云フト華族令ハ全ク特別カ

ル法律デアラ、民法ハソレニ對スル普通法デアルト云ヘル、
 特別法ノ定義ハ一國內ノ或地方又ハ或人ニノミ適用スベキ法律デアル、即チ臺灣ノ總テノ法令ハ皆特別法デアル、ソレカラ曩ニ申シタ北海道區制、北海道一級町村制、二級町村制ハ皆サウデアアル、沖繩縣ノ區制、間切規程モサウデアアル、是ハ土地ニ關スル特別法デアル、人ニ關スル特別法ヲ言ヘバ皇室典範、華族令等ノ如キデアル、其外ニモ幾ラモアル
 此普通法特別法ノ區別ニハ一ノ大ナル實用ガアル、ソレハドウデアアルカト言ヘバ右ノ點レノ點ヨリ觀察スルモ、即チ法律ノ内容ヨリ觀察スルモ、效力ヨリ觀察スルモ、常ニ特別法ハ普通法ニ先ダツテ適用セララル、即チ特別法ト普通法ト異ナツテ居ル場合ニハイツモ特別法ガ先ニ適用セララル、例ヘバ商事ニ關シテハ商法ノ規定ト民法ノ規定ト異ナツテ居ル場合ニハ商法ノ規定ヲ先ヅ適用スル、商法ニ規定ノナイコトハ民法ニ依ル又契約ニ付テモ各論ニ規定ノアル事ハ先ヅ各論ノ規定ニ依リ、ソレニ規定ノナイ事ダケハ總論ニ依ル、或ハ臺灣ニ關スル特別ノ法令ガアレバ必ずソレニ依ラナケレバナラス、北海道ニ付テハ北海道ノ區、

町村制、沖繩縣ニ付テハ沖繩縣ノ區制、間切規程、皇族ニ付テハ皇室典範、華族ニ付テハ華族令ト云フモノガ先ヅ行ハルルノデアル、サウ云フ風ニ特別法ハ普通法ニ先ダテ適用セラレルト云フ點ニ於テ此區別ハ頗ル大切デア
以上ニテ普通法、特別法ノ區別ヲ終リマシタ

第六節 命令法、隨意法

命令法、隨意法ノ區別ハ法律ノ效力ヨリシテ爲ス所ノ區別デア
第一 命令法

「命令法」ト云フノハ或ハ強行法ト云フ、ソレカラ或場合ニハ之ヲ禁止法ト名ケル、即チ消極的命令法デア
ル、或事ヲ爲サザルコトヲ命スルノガ禁止法デス、人ヲ殺シテハナラス、人ノ物ヲ奪ウテハナラヌト云ヘバ禁止法デア
ル、併シソレハ矢張り命令法デア
ル、何トナレバ人ヲ殺サザルコトヲ命ズル、人ノ物ヲ盜マザルコトヲ命ズルト云フノデア
ルカラデス、是ハ定義ヲ下シマス、利害關係人ガ其意思ヲ以テ適用ヲ免ルルコトヲ得ザル法律デア
ルト謂ハナケレバナラス、例ヘバ刑

法、是ハ大抵皆命令法デス、見ヤウニ依テハ刑法ト云フモノハ人ヲ殺スコトヲ禁ジテ居ルトカ、人ノ物ヲ盜ムコトヲ禁ジテ居ルトモ見ラレヌコトハナイ、併シ形ノ上ニ於テハサウ云フ風ニ爲テ居ラス、人ヲ殺シタ者ハ死刑ニ處スルトカ或ハ無期徒刑ニ處スルトカ、人ノ物ヲ盜シタ者ハ何年ノ禁錮ニ處スルトカ云フヤウニ爲テ居マスカラ形ノ上カラ言ヘバ禁止法デハナイ、人ヲ殺シタ者ハ死刑ニ處スルトカ或ハ故殺ノ場合ナラバ無期徒刑ニ處スルトカ、又竊盜強盜ハソレソレ禁錮トカ懲役トカニ處スルト云フヤウナ規定ハ命令規定デア
ルカラ特ニ汝ト吾トノ間デハ縱令互ニ殺シラモ死刑ニ處セラルルコトノナイヤウニシヤウデハナイカ、互ニ物ヲ盜シテモ禁錮懲役ノ刑ニ處セラルルコトハナイヤウニシヤウデハナイカト云テモ駄目デア
ル、況ヤ裁判官トソシテ約束ヲシテモ固ヨリ無効デア
ル、即チ利害關係人ガ其意思ヲ以テ適用ヲ免ルルコトハ出來ナイ法律デア
ル、憲法モ亦サウデス、法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ムルト云フコトニ爲テ居ルノヲ天皇ガ此法律ニ付テハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルノハイヤデア
ルカラト仰シヤル譯ニモイカズ、帝國議會ガ法律ハ我我ノ協贊ヲ經ナクテモ宜シ

イト云フコトヲ極メルコトモ出來ヌ、尤モ是ハ例ノ委任命令ト云フモノト法律トノ關係ニ於テハ、色色議論モアルケレドモ、一般ニ憲法ノ規定ニ依ラズシテ法律ヲ制定スルコトヲ得ルト定メルコトハ出來ナイ、又租稅ハ法律ニ依テ徵收スルト云フコトニ定メテアル、ソレヲ政府ガ法律ニ依ラズシテ租稅ヲ徵收スルト云フコトハ一切出來ナイ、即チ憲法ハ概シテ言ヘバ命令規定ヲ以テ滿タサレテ居ル所ノ法律デアアル、即チ命令法デアアル、尙ホ私法ニ於テモ民法中ノ或規定ハ矢張り命令法デアアル、例ヘバ物權ニ關スル規定ハ多ク命令法デアアル、

第二 隨意法

「隨意法」トハ如何ナルモノデアアルカ、尙ホ其名稱ニ付ラモ、或ハ任意法トモ云ヒマスケレドモ、任意法ト名ハ私ハ面白クナイト思フ、餘リ用ヒス、ソレカラ規定ト云フ、ナゼ規定法ト云フカト云ヘバ必ズシモ命令スルノデハナイ、一般ノ規則トシテ定メテ居ルニ止マルカラデアアル、ソレカラ許可法ト云フ、法律ガ必ズ命令シテ居ルノデナイ、許シテ居ルノデアアルカラデアル、ソレカラ解釋法トモ云フ、ソレハナゼカト云フト、單ニ當事者ノ意思ヲ解釋シテ定メタル所ノ法律デアアルノデ、

若シ當事者ガ之ニ異ナラサル意思ヲ持ッテ居ルナラバ其意思ニ從スカラデアアル、其定義ハ利害關係人ノ意思ヲ以テ適用ヲ免ルルコトヲ得ル法律デアアルト、斯ウ云テ宜カラウト思フ、例ヘバ各種ノ準則、同業組合準則ト云フモノモアルガ、法律ガ利害關係人ノ依ルベキ原則ヲ定メテ置イテ、詰リ依テモ依ラナクテモ宜イケレドモ、若シ依ルナラバ斯ウ云フ風ニシテ然ルベキデアアルト云フ標準ヲ定メテ居ル法律此種類ノモノハ幾ラデモアル、ソレハ皆隨意法デアアル、尙ホ民法ノ規定ハ大部分ニ於テ隨意法デアアル、就中債權契約ナドニ關スル規定ハ大抵皆隨意法デアアル、即チ利害關係人ガ其意思ヲ以テ適用ヲ免ルルコトガ出來ル、例ヘバ債權ニ期限ノ附シテアル場合ニハ其期限ガ來テ尙ホ履行シナケレバ所謂遲滞ニ在ルト云フテ、其結果少クモ損害賠償ノ責任ガアルト云フコトニ爲ッテ居ル、併シ其事者ノ間ノ約束デ期限ハ定メテアルテモ尙ホ期限ガ過キテカラ債權者ガ債務者ニ對シテ特ニ請求ヲ爲スマデハ所謂遲滞ニ在ラヌ、隨テ損害賠償ノ義務モナイト云フヤウニ定メテ置イテモ差支ナイ、或ハ又契約ノ約束通りニ履行シナケレバ相手方ニ於テ其契約ヲ解除スルコトガ出來ルト云フ規定ガアルケレドモ

併シ特約ヲ以テ解除ハ出來ナイト云フコトニ極メテ置イテモ差支ナイザウ云フ風ニ民法ノ大部分ノ規定ハ皆隨意法デアアル又或ハ強ク規定スルモノアリ此命令法ニ隨意法ト云フノハ學者ニ依リテハ命令規定隨意規定ト云フノデアアルガ、寧ロ其方が正確デアアル何トナレバ或法典トカ或法律トカノ全體ガ命令法ニ屬スルトカ隨意法ニ屬スルトカ云フコトハ滅多ニナイノデ其規定ガ命令の規定デアアル、隨意的の規定デアアルト云フコトニ爲ル、甚シキハ一箇條ノ中デ一部分ハ命令の規定デアアテ、他ノ一部分ハ隨意的の規定デアアルト云フコトモ珍シクハナイ、尤モ之ヲ言ヘバ他ノ法律ノ區別デモ矢張りサウデアアル例ヘバ民法ト云ヒマスガ、詳シク言ヘバ民法中ニモ多少ノ公法ヲ含ンデ居ル、即チ或場合ニ行政官廳ガ法人ノ解散ヲ爲スコトガ出來ルトアル、此等ハ公法ニ屬シテ居ル、其類ノ事ハ民法ノミナラズ、商法ニモアル、例ヘバ會社ガ或場合ニ裁判所ノ命令ニ依リテ解散セララルト云フコトガアル是モ公法ニ屬シテ居ル、其他多少疑ノアル場合モアルケレドモ要スルニ民法デモ商法デモ多少ノ公法の規定ヲ含ンデ居ラナイコトハナイ、其代リ所謂行政法ト稱スル所ノ法令デモ多少ノ私法の規定ヲ含

ンデ居ルモノガ少クナイ、又前ニモ申シタヤウニ實體法形式法ニ付テモ民法、商法ハ概シテ實體法ニ屬スルモノデアアルト云ヒマスガ、矢張り手續規定モアル、例ヘバ遺言ト云フモノハドウ云フ形式ヲ持テ居ラナケレバナラヌカト云ヘバ、是則ハテ形式法ニ屬スル、又商法ニ於テ會社ノ設立ニ常テハ定款ヲ作ラナケレバナラヌ、其定款ニハドウ云フコトヲ記載シナケレバナラヌト云フヤウナコトハ矢張り形式法デアアル、ソレ故ニ此實體法形式法ノ區別モ或ハ實體規定、形式規定ト云フ方が穩當デアアルカモ知レヌ、ソレト同ジコトデ「命令規定」隨意規定ト云フ方が或ハ正確デアアルカモ知レヌガ、併シ法律ト云フノハ固ヨリ無形ノ意味ニ於テ我我ハ言フテ居ルノデ、必ズシモ或法典或ハ一ツノ形式ヲ具ヘタ法律ト云フ意味デハナイカラ、矢張り私ハ「命令法」隨意法ト云フテ宜シト思フ、又學者ノ多クハサウ云フ風ニ言フテ居ル、
 ○此命令法、隨意法ノ實用ハ既ニ定義ニ依リテ明カデアアル通り實際ニ最モ必要ナル區別デアアル、即チ命令法ニ反スル意思表示ハ無効デアアル、之ニ反シテ隨意法ニ反スル意思表示ハ有效デアアルト云フコトガアル例ヘバ民法デ云フテ見テモ遺

言ハ一定ノ方式ニ依ラナケレバナラヌト云フコトガ規定シテアル、是ハ命令規定デアル、隨テ或者ガ或他ノ者ト契約ヲシテ我ノ間ニ於テハ遺言ハ何等ノ形式ヲ履マズトモ有效デアルト云フコトニシヤウデハナイカト云テモ其契約ハ無効デアアル之ニ反シテ賣買ノ場合ニ於テ買主ガ直チニ代價ヲ拂ハスケレバ或時期カラシテ之ニ利息ヲ附セナケレバナラヌト云フ規定ガアル、併シソレハ契約ヲ以テ初ヨリ利息ヲ附スルト云フコトニシテモ宜シ或ハ利息ヲ附セスト云フコトニシテモ宜シイ、ソレ等ハ所謂隨意法ニ屬スルモノデアアルカラ當事者間ニ於テ勝手ニ極メルコトガ出來ル

此事ハ民法ニモ明文ガアツテ、民法ノ第九十條乃至第九十二條ガソレデアアル、今私ノ言フ通りニハ書イテナイケレドモ其趣意ガ明カニ爲テ居ル、唯實際ニ於テムヅカシイ問題ハ如何ナルモノガ命令法デアツテ、如何ナルモノガ隨意法デアアルカト云フコトデアアル、是ハ各國ニ於テムヅカシイ問題ト爲テ居ル、何トナレバ第一ニ立法者ガ命令の規定ト隨意的の規定トヲ區別シテ書カウト思フテモ先ヅ今日マデ實際ニ行ハレタル所ニ依テ見レバ到底言葉ヲ以テ此二者ノ區別ヲ明カニス

ルコトハ出來ヌ、例ヘバ「要ス或ハ得ズ」ト云ヘバ何カ命令の規定ノヤウデアアルケレドモ是ノミニ依テ命令の規定デアアルヤ否ヤヲ判断スルコトハ到底出來ヌ、ソレハ我邦ニ於テ出來ナイノミナラズ歐米諸國ニ於テ皆出來ナイ、何トナレバ法律ノ規定スル場合ハ千差萬別デアツタナカチカ此ノ如キ單純ナル標準ニ據ツテ規定ヲ設クルト云フコトハ實際出來ヌ、成程手續規定ナドニ付テハ或ハ多少用語ニ付テ區別スルコトガ出來ルカモ知レヌ、現ニ獨逸ノ民事訴訟法ハソレヲ試ミテ居ル、我民事訴訟法モ獨逸ノ民事訴訟法ニ倣ウタノデアアルガ是ハ獨逸ノ民事訴訟法ヨリモ不正確デアツテ全ク成功シテ居ラス、併シ元來民事訴訟法ノ規定ハ殆ド皆命令の規定デスカラ實ハ民事訴訟法ニ於テ命令の規定ト隨意的の規定トヲ區別スルト云フヨリモ同ジ命令規定ノ中デ其制裁如何ト云フコトヲ區別スル爲メニ獨逸ノ立法者ハ苦心シタノデアアル、ソレ故ニ同ジ獨逸デモ民法ノ規定デ執レガ命令規定デアツテ、孰レガ隨意規定デアアルカト云フコトハ矢張り單ニ用語ノミニ依ツテハ全ク分ラヌノデアアル、即チ是ハ規定ノ性質ニ依ツテ區別スルノ外ハナイ、幸ニ多クノ場合ニハ其性質ガ自ラ明瞭デアアル例ヘバ先刻申シタ

遺言ノ形式ニ關スル規定ノ如キハ其命令の規定デアルト云フコトハ何人モ之ヲ疑ハス、又契約ノ不履行ノ場合ニ於テ相手方ヨリ其解釋ヲ爲スコトガ出來ルト云フコトモ是ハ命令規定ニ非ズシテ隨意的規定デアルト云フコトハ何人モ疑ハスノデアアル、ナウ云フ規定ガ幸ニ多イ併シ時トシテハ疑ハシイ問題ガ起ル、現ニ委任契約ニ於テ我民法ノ規定ニ依レバ而シテ各國ノ法律大抵皆ナウデス、當事者雙方カラシテ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトガ出來ルトアル、委任者カラデモ受任者カラデモドテラカラデモ契約ヲ解除シテ、即チ委任ヲ爲ス者ハ相手方ノ解任ヲ爲スコトガ出來ル受任者ハ辭任ヲ爲スコトガ出來ルト云フコトニ爲テ居ル、此規定ハ果シテ命令の規定デアるか隨意的の規定デアるかト云フコトハ今日多少ノ疑問ト爲テ居ル、裁判例ハ幾分か命令の規定デアるか如ク解シテ居リマス、ケレドモ私共ハソレハ誤ラテ居ルト思ヒ、左様ノ事ハ各種ノ法律ニ於テ免レス、ドウモ是ハ各國皆巴ムコトヲ得スコトト爲テ居ル、各場合ニ付テ論ズルノ外ハナイ、命令の規定ノ中デ制裁ノ一様デナイト云フコトヲ注意シナケレバナラス、

罪トテ可トス可キ證據ト爲スニ足ラス、
 二、是非ヲ辨別シテ重罪又ハ輕罪タルベキ行為ヲ爲シタル場合ニ幼者ハ重罪又ハ輕罪ニ付テハ其精神カ發達セサル故ヲ以テ罪ノ主體タルコト能ハスト規定セララル者ナルヲ以テ若シ此種ノ幼者ニシテ事實上完全ノ精神ヲ有シ是非ヲ辨別シテ罪又ハ輕罪タル行為ヲ爲シタリトセンカ之ヲ犯行無能力者ト爲ス根據頗ル薄弱ナルコトヲ免レサルヲ以テ刑法ハ寧ロ此種ノ幼者ヲ罪ノ主體ト爲スコトヲ至當ト認メタル如シト雖モ到底良好ナル法制トハ云フ可カラス、
 上述セルトコロハ現行法ノ規定ナリ現行法ハ十二歳未滿ノ者ヲ以テ絕對ニ罪ノ主體ト爲ルコト能ハサル者ト爲スヲ以テ勢ヒ十二歳以上十六歳未滿ノ者ヲ以テ關係的ニ罪ノ主體ト爲リ得ル者ト爲ス必要ヲ生シタリ然レトモ關係的ニ罪ノ主體ト爲リ得ル者ヲ認ムル法制ハ上述ノ如ク妥當ノ法制ナリトハ謂フコトヲ得サルノミナラス十二歳未滿ノ者ヲ以テ絕對的ニ罪ノ主體ト爲リ得ル者ト爲スハ其範圍狹隘ニ失スル嫌アリ寧ロ其十二歳ナル標準ヲ高メテ絶

對的ニ罪ノ主體ト爲リ得タル者ノ範圍ヲ擴開シ關係的ニ罪ノ主體ト爲リ得タル者ヲ認ムル法制ヲ全廢スルニ如クシヤ一刑法改正案第五十一條

第四款 餘論

上述シタル所ハ唯通常ノ罪ニ付テ論セシノミ諸般ノ税法ニ規定シタル罪ニ付テハ特別ノ明文ニ依リ單ニ罪タル事實ノ相生シタルコトノミニ依リテ其違反罪ノ成立スルコトアリ此種ノ罪ハ學者ノ所謂形式罪ト云フモノニシテ後述スル如ク單ニ積極的罪態ノ主觀的觀察ニ於テ除外例タルノミナラス又主體タルコトヲ得ル能力ニ於テモ亦除外例タルモノトス故ニ此種ノ罪ニ付テハ其精神ノ障礙ノ有無又ハ發達ノ程度如何ヲ論セスシテ其主體タルコトヲ得ヘキナリ

第二節 罪ノ客體

罪ノ客體トハ學者或ハ罪ノ目的物ヲ意味セシムル者ナキニアラスト雖モ予ハ罪ノ受動者ニシテ罪ニ因リテ其法物ヲ害セラルル者ヲ謂フモノト前提ス即チ罪ノ客體タル要件ハ單ニ法物ヲ有スルコトニ在リ而シテ法物トハ法律ニ依リテ保護セラルル利益ヲ謂フニ外ナラス法律ハ社會的ノ產物ニシテ唯國家及ヒ人ノ爲メニノミ存在スルモノナルヲ以テ原則トシテハ國家及ヒ人ノミ獨リ罪ノ客體タリト謂フコトヲ得ヘシ

第一 胎兒 胎兒ハ特定ノ法物ニ關シテノミ罪ノ客體タルコトヲ得即チ刑法第三百三十條乃至第三百三十二條ニ之ヲ規定ス胎兒ハ未タ出生セサル人ナルヲ以テ通常何等ノ法物ヲモ有セサルコトヲ原則トスト雖モ遽カラズシテ出生シ且生存スヘキ者ナルヲ以テ恰モ民法上例外トシテ胎兒ヲ特定ノ私權ノ主體ト爲ス如ク刑法ニ於テモ例外トシテ法物ヲ有スル者トシ特定ノ罪ノ客體タルコトヲ得セシメタルナリ學者或ハ云フ刑法上胎兒ハ國家ノ法物トシテ之ヲ保護スルモノニシテ胎兒タル資格ニ於テ之ヲ保護スルニアラスト別種ノ論理ナリト雖モ予ハ之ヲ採ラス

一 有ス或ハ身體自身ニ關スル法物アルヘク或ハ其名譽ニ關スル法物アルヘク
或ハ其財産ニ關スル法物アルヘシ此等ノ法物ヲ有スルハ即チ罪ニ因リ害ヲ
被ルコトヲ得ル所以ニシテ自然ノ客體タル所以ナリ而シテ自然ノ
其老幼尊卑ニ論ナク又ハ健康ノ狀態如何ニ關セズ悉ク罪ノ客體タリ得ルモ
ノナリ

二 法人 法人ニハ公法人及ヒ私法人ノ區別アリ客體ノ客體タル
イ且公法人ハ公法人トハ地方團體又ハ公ノ組合團體等國家行政ノ一部ヲ司掌
スルモノヲ謂ヒ官制上特定ノ權限ニ關シテノミ人格ヲ有スルニ止マル故ニ
公法人ハ官制ニ依リ認許セラレタル人格ニ關シテノミ罪ノ客體タルコトヲ
得ヘクシテ人格ヲ認許セラレサル事項ニ付キ害ヲ被リタリトスレバ其害ハ
寧ロ國家ノ被リタルモノト謂ハサルヘカラス

ロ 私法人 私人ニモ亦商會社公益社團公益財團等ノ區別アリト雖モ其
人格ハ主トシテ財產權能ニ付テ存在シ財產權能ヲ有スルヲ以テ從テ名譽ヲ
有ス可シ

第三節 國家 國家ハ人ノ集合團體ニシテ人衆ナクンハ則チ國家ナシ乃チ人ニ
對スル罪ハ一面ニ於テ更ニ國家ニ對スル罪タルヘシ故ニ罪ハ一面ニハ總テ國
家ニ對スルモノナル如ク他ノ一面ニ於テハ悉ク人ニ對スルモノナルカ如シト
雖モ所謂國家ノ法物ヲ害スル罪トハ直接國家ニ對スル罪ヲ云フニ外ナラス

第三節 罪

第一款 罪ノ概念

第一項 總說

本條ニ所謂罪トハ罪ノ主體及ヒ客體間ニ發生シタル關係ヲ謂フモノニシテ此
關係ハ罪ノ主體カ罪ノ客體ニ對シ罪タル行為ヲ爲シタル場合ニ於テ發生スル
モノトス
或ハ罪ハ法規違反ノ事實ヲ云フト爲ス者アリト雖モ之ヲ採ラス予ハ罪ハ行為
ナリト信ス
行爲トハ人類ノ意思ニ依リテ生シタル外界ノ變更ヲ云ヒ刑法ハ例外トシテ特

定ノ目的ニ出ラタルコト若クハ觀念セサル結果ノ到來シタルコトヲ罪態ト爲スコトアリト雖モソノ目的ノ何タルヲ問ハス若クハ觀念セサル結果ノ到來シタルヤ否ヤヲ區別セシテ罪ト爲スコトヲ通常トス假リニ特定ノ目的ニ出ラタルコトヲ罪態トスル罪ヲ目的特定罪ト云ヒ觀念セサル結果ノ到來シタルコトヲ罪態トスル罪ヲ結果罪ト云ヒ上ニ屬セサル罪ヲ通常罪ト云ハントス而シテ罪ハソノ何レナルヤヲ區別セス凡テ各特殊ノ態様ヲ有シ之ヲ概論スルコトヲ得スト雖モ多數ノ罪ニ共通スル態様ヲ抽出シテ觀察スレハ概テ存在ス可キ態様即チ積極的罪態ト存在ス可カラサル態様即チ消極的罪態トニ區別スルコトヲ得成ハ子ノ所謂消極的罪態ト爲スモノヲ以テ積極的罪態ト爲ス者多シト雖モ予ハ之ヲ探ラス

第二項 積極的罪態

積極的罪態トハ刑法第二編以下ニ列記シタル態様ヲ謂フニ外ナラス而シテ其各罪目ニ付キ詳細ニ論究スルハ各論ノ範圍ニ屬スルヲ以テ本項ニ於テハ此等

ノ罪ニ共通スル性質即チ罪ノ一般ノ性質ヲ説明スルニ止ムヘシニシテ、
罪ノ一般ノ性質ヲ講究スルニハ主觀的ニ罪ヲ觀察シテ以テ罪ト罪タル事實ヲ惹起スル意思トノ關係ヲ説明シ客觀的ニ罪ヲ觀察シテ以テ罪ト罪タル事實トノ關係ヲ説明セシトス

第一目 主觀的觀察

第一段 總說

罪ヲ主觀的ニ觀察スルトキハ先ツ何等ノ罪態ヲモ有セサルモノト然ラザルモノトニ之ヲ區別スルコトヲ得上述シタル如ク諸般ノ税法又ハ專賣法ニ規定シタル罪ハ特別ノ明文ニ依リテ單ニ罪ト爲ルヘキ事實ノ發生シタルコトノミニ依リテ成立スルモノトス此種ノ罪ハ學者ノ所謂形式罪ト謂フモノニシテ其罪態ハ唯客觀的ニノミ觀察シ得ヘキモノナルヲ以テ主觀的觀察トシテハ何等說明スヘキ事項ナシ

然レトモ上述シタルトコロハ單ニ税法又ハ專賣法ノ違反罪等ニ付テノミ生ス

ルモノニシテ事固ヨリ事物ノ例外ニ屬ス故ニ左ニ專ラ原則タル罪即チ主觀的罪態ヲ有スル罪ニ付キ主觀的觀察ヲ下サントス

第二段 通常罪

通常罪ヲ主觀的ニ觀察スルトキハ決意及ヒ所謂犯意ナリトス決意トハ動作ノ主觀的部面ニシテ特ニ其説明ヲ爲ス要ナキヲ以テ左ニ所謂犯意ノ何タルヤヲ説明セントス

第一 犯意

第一 犯意ノ概念

刑法第七十七條第一項乃至第三項ノ規定ニ付キ考查スレハ刑法上所謂犯意トハ(1)罪ト爲ルヘキ事實ヲ知ルコト(2)罪ノ重カルヘキ事實ヲ知ルコトナリト謂ハサルヘカラスト雖モ所謂罪ノ重カルヘキ事實トハ罪ト爲ルヘキ事實ノ一部少クトモ一種ニ過キサルヲ以テ要スルニ罪ト爲ルヘキ事實ノ了知ヲ謂フニ過

キサルヘシ然ラハ罪ト爲ルヘキ事實トハ如何予ハ刑法ノ語句ニ拘泥セスシテ左ニ犯意ニ關シ先ツ三箇ノ斷定ヲ下シテ徐ニ其斷定ニ達スル所以ヲ説明セントス

一 犯意ハ動作ニ隨伴ス 心理學者ノ教示スルトコロニ依レハ動作ヲ爲スニ

(1) 動作及ヒ其結果ヲ觀念ス—觀念

(2) 舉動ヲ爲サンコトヲ動神經系ニ命ス—決意

而シテ舉動ヲ爲サンコトヲ動神經系ニ命スル作用即チ決意ハ畢竟動作ノ主觀的部面ニシテ動作ト表裡前後ノ關係ヲ有シ到底動作ト分離シテ之ヲ豫想スヘキモノニアラス或ハ決意ヲ犯意ノ概念中ニ包含セシメ犯意ヲ定義シテ觀念決意ナリト云フ者ナキニアラスト雖モ予ハ之ヲ採ラス予ハ犯意ハ動作ニ隨伴スルモノナリト信スルニ拘ハラス之ヲ意思ノ狀態ナリトシ意思ノ作用ニアラスト斷定シ靜的意思ニシテ動的意思ニアラスト斷定ス

二 犯意ハ觀念ナリ 所謂觀念トハ精確ニ論スレハ了知及ヒ狹義ノ觀念ニ區

別セサル可カラス是レ現存ノ事實ノ認識ハ之ヲ了知ト云ヒ將來ノ事實ノ認識ノミヲ觀念ト云フコトヲ妥當ナリトスレハナリ學者或ハ了知ト觀念トヲ區別シテ論スル者アリ或ハ觀念ナル語中ニ觀念及ヒ了知ヲ包含ストシテ論スル者アリト雖モ其趣意ニ至リテハ差異ナシ
 觀念トハ必然發生スヘキコトノ觀念若クハ發生ノ虞アルコトノ觀念ナラサルヘカラス故ニ必然發生セサルコトノ觀念ハ犯意ヲ成立セシムヘキ所以ニ非ス

犯意ハ觀念ナリトスル見解ニ相對シテ犯意ハ意欲又ハ希望ナリトスル見解アリ前者ヲ豫見主義又ハ觀念主義ト云ヒ後者ヲ意欲主義希望主義又ハ意思主義ト云フ希望主義ノ所説ニ依レハ結果ノ豫想及ヒ決意ハ共ニ意思ノ作用ニシテ智識ハ只種種ノ結果ヲ提案スルノミ此提案ニ基キテ意思ハ其結果ヲ選擇シ其希望シタル結果カ決意ノ内容ト爲リタル場合ニ於テ始メテ犯意ハ成立スト云フナリ然レトモ結果ヲ豫想スルハ智識ノ作用ニシテ智識ノ命シタルモノヲ動神經系ニ傳達スルハ意思ノ作用ナリ然ラハ意思ハ只智識ノ命

令ヲ執行スル作用ノミヲ有スルモノナリ故ニ犯意ハ事ロ觀念ナリト云フ可クシテ希望又ハ意欲ナリト云ハサルコトヲ可トス希望主義ノ可否ハ心理學上決定ス可キ問題ニシテ今直ニ其優劣ヲ判斷シ得ヘキニアラスト雖モ希望主義ノ犯意論ハ要スルニ(1)意思ノ何タルヤカ極メテ不明ト爲リ(2)犯意ト目的トノ區別モ亦極メテ不明ト爲ルノミナラス(3)希望主義ヲ採ルトスルモ意思ノ何タルカハ概テ觀念ナル思想ヲ假リテ之ヲ説明セサル可カラサル點ニ於テ非難ヲ免レ難キ如シ

三 犯意タル可キ觀念ハ動作、違法ヲ除却セサルコト及ヒ結果ニ關ス 動作及ヒ結果ハ客觀的且積極的罪態ニシテ違法ヲ除却ス可キ事實ハ消極的罪態ナリ動作及ヒ違法ヲ除却セサルコトハ現存ノ事實ニ屬スルヲ以テ之ヲ了知ス可ク結果ハ將來ノ事實ニ關スルヲ以テ之ヲ觀念ス可シ

(1) 動作ノ了知 動作ノ了知トハ要スルニ動作ノ凡テノ體様即チ動作ノ主體又ハ客體ノ身分資格其他ノ性質目的物ノ身分資格其他ノ性質動作ノ手段ノ性質等ニ關スル了知ヲ云フ

(2) 違法ヲ除却セザルコトノ了知 違法ヲ除却ス可キ事實ハ消極の罪態ニシテ之ヲ積極の罪態ト對比スルニ其間ニ毫モ輕重ス可キ根據ナシ然ラハ消極の罪態カ存在スト了知シ即チ違法ヲ除却スト了知シテ動作ヲ爲スハ動作ノ了知又ハ結果ノ觀念ナクシテ動作ヲ爲スト同一ノ效果ヲ生ス可キモノノ如シ予ハ違法ヲ除却セザルコトノ了知ヲ以テ犯意ノ成立ニ必要ナリト信ス是レ通説ナリト雖モ違法ヲ除却スト信スルト否トハ犯意ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサスト爲ス反對ノ見解アリ

(3) 結果ノ觀念 結果トハ動作ニ依リ將來ニ於テ生スヘキ事實ヲ謂フ而シテ一箇ノ動作ヲ爲スニ付ラモ依リテ生ス可キ事實ノ觀念ハ必スシモ一箇ナリト思料スヘカラス

第二 種別

犯意ニハ種種ノ種別アリ得ヘシ

- 一 豫謀及ヒ故意 豫謀ト故意トヲ區別スル標準ニ付テハ種種ノ異説アリ
- (1) 思慮シタル時間ノ長短ニ依リテ區別スル見解 時間ノ長短ヲ區別ノ標

ナリトス 以上述フルカ如ク財貨ノ主觀的價值ハ人カ其限界的效用ヲ認識シテ之ヲ尊重スル程度ニ外ナラスト雖モ其程度ヲ表示セントセハ他ニ其比較スヘキモノアルヲ要ス例ヘハ米ト織物トヲ有スルトキハ互ニ其限界的效用ヲ比較シ織物一反ト米二俵ト限界的效用相等シキトキハ織物一反ノ主觀的價值ハ米二俵ノ主觀的價值ト相等シト謂フヘキナリ而シテ上來述ヘシ理由ニ依リ同一ノ財貨ト雖モ人カ之ニ付與スル主觀的價值ハ互ニ相異ナリ他ノ財貨ヲ以テ表示スル比例モ亦同シカラス是レ即チ交易ノ行ハルル所以ナリ然レトモ實際交易ノ行ハルルニ當リ一ノ財貨カ他ノ財貨ト交易セラルル比例ハ交易ノ對手カ各有スル主觀的價值ト一致セザルナリ例ヘハ甲ナル者米百俵ヲ有シ一年間ニ於テ之ヲ自己ノミノ消費ニ供セントスルトキハ米ノ限界的效用ハ殆ト皆無ニシテ主觀的價值モ亦然リトス然ルニ偶然乙ナル者來リ織物一反ヲ以テ米一俵ニ交易スルトキハ甲ハ主觀的價值皆無ナル米一俵ヲ以テ多少ノ主觀的價值ヲ有スル織物一反ヲ得ルモノトス又深林ニ途ヲ失ヒ飢餓ニ迫リタル人カ米一升ニ對シ

經濟學・財貨ノ交易及ヒ價值ノ意義 價值ノ意義

ヲ有スル主觀的價值ハ甚タ大ナルヲ以テ多額ノ貨幣ヲ支拂フモ向ホ米ヲ得ルコトヲ欲スヘシ然レトモ幸ニ村落ニ出ツルコトヲ得テ米ヲ買ハントスルトキハ少額ノ貨幣ヲ以テ一升ノ米ヲ買ヒ得ルモノナリ此ノ如ク財貨カ其交易セララルニ當リ交易ノ對手カ其財貨ニ對シテ有スル主觀的價值ニ相當セザル交換ノ比例ヲ現ハスモノトス而シテ此比例ニ由リ表示セララル價值ヲ財貨ノ客觀的價值ト名ク蓋シ此客觀的價值ナルモノハ社會ニ於ケル多數ノ人カ種種ナル程度ニ於テ一ノ財貨ニ與フル主觀的價值ニ淵源スルモノナリト雖モ各人カ殊別ニ付與スル主觀的價值トハ同一ニ非サルナリ而シテ客觀的價值ハ或ハ他ノ財貨ト交換セララル力ナリト稱シ又ハ他ノ財貨ト交換セララル比例ナリト曰フ者アリテ普通之ヲ交換價值ト名クルナリ

一ノ財貨ノ有スル交換價值ヲ他ノ財貨ノ數量ヲ以テ之ヲ表示スルトキハ之ヲ其價格ト稱ス例ヘハ馬一頭ヲ以テ米五石ニ交換シ得レハ馬ノ價格ハ即チ米五石ナリ又之ヲ以テ金十匁ニ交換シ得レハ馬ノ價格ハ即チ金十匁ナリ此ノ如ク一箇ノ財貨ハ比較スル財貨ノ種類ノ異ナルニ從ヒテ異ナリタル價格ヲ有スト

雖モ單ニ價格ト稱スルトキハ通例貨幣ヲ以テ表示スル交換價值ナリトス

第二章 價格

第一節 需要及ヒ供給

勞働分配既ニ行ハレ人人主トシテ交易ニ依リテ其欲望ヲ満足スル社會ニ於テハ財貨ノ價格ナルモノハ人人ノ經濟的動作ニ至大ノ關係ヲ有スルモノトス故ニ價格カ如何ニ決定セラレ又如何ニ變動スルカヲ研究スルハ經濟學中主要ナル部分ノ一ナリトス而シテ實際市場ニ於テ成立スル價格ナルモノハ種種ナル原因ノ影響ヲ被ルモノナレトモ此等ノ原因ハ多クハ偶發ノモノニシテ常ニ必スシモ存在スルモノニ非サルナリ是ヲ以テ價格ニ關スル原則ヲ知ラント欲セハ此等偶發ノ原因ヲ顧ミス抽象的ニ研究セザルヘカラス即チ一ノ市場ニ於テ賣買者共ニ全ク自己ノ利益ヲ唯一ノ目的トシテ互ニ競争シ而シテ賣買者共ニ市場ノ狀況ニ通曉スルモノト假定スルコト換言スレハ自由競争行ハルルコト是ナリ此ノ如ク自由競争行ハルルモノトスレハ財貨ノ價格ハ全ク需要供給ノ

關係ニ因リテ定マルモノトスルニシテ、
 需要トハ人人カ或一定ノ價格ニテ買ハント欲スル財貨ノ數量是ナリ故ニ一ノ財貨ニ對スル需要ト之ニ對スル欲望トハ必スシモ同一ナラス需要ハ所謂有效の需要ナラサルヘカラサルナリ
 供給トハ人人カ或一定ノ價格ニテ賣ラント欲スル財貨ノ數量是ナリ故ニ實際存在スル財貨ト雖モ供給ニ加ハラサル場合アリ例ヘハ凶歲ニ備フル爲メ貯藏スル米ノ如キ平日ニ於ケル米ノ供給ニ非サルナリ又供給ハ賣買ノ當時賣ラントスル者カ實際之ヲ所有セサルコトアリ取引所ニ於ケル定期取引ハ之カ實例少カラサルナリ

一ノ市場ニ於テ一ノ財貨ノ需要カ其供給ト相投合セシテ例ヘハ需要カ供給ヨリモ大ナリトセンニ此場合ニ於テ需要ハ供給ト如何ニシテ平均スルカヲ見ルニ其財貨ヲ買ハント欲スル人ノ中ニハ其財貨ヲ要スルコト他人ヨリモ切ナルモノアリ之ヲ換言スレハ其財貨ニ對シテ有スル主觀的價值ノ大ナルモノアルナリ此ノ如キ需要者ハ一層多額ノ價格ヲ以テスルモ其財貨ヲ得ント欲スト

雖モ他ノ需要者ハ其財貨ニ對スル主觀的價值大ナラサルカ故ニ上騰セル價格ヲ以テ其財貨ヲ得ルコトヲ欲セス隨テ其買入ヲ中止スルカ故ニ需要ハ減少スルナリ之ト同時ニ自己カ其財貨ニ對スル主觀的價值ノ大ナルカ爲メニ前ニハ賣ラントコトヲ欲セザリシ者モ價格ノ昇騰セルヲ見テ新ニ供給者ノ群ニ入り隨テ供給ハ増加スルナリ是ニ於テ需要ハ減少シ供給ハ増加シ遂ニ平均ヲ來シテ一定ノ價格ノ成立スルヲ見ルナリ更ニ需要供給ト代價トノ關係ニ付テ簡單ニ述フレハ價格ノ上騰ハ供給ノ増加ト需要ノ減少トヲ來シ價格ノ低落ハ供給ノ減少ト需要ノ増加トヲ來スモノニシテ又反對ノ方面ヨリ之ヲ言ヘハ供給ノ増加若クハ需要ノ減少ハ價格ノ低落ヲ來シ供給ノ減少若クハ需要ノ増加ハ價格ノ昇騰ヲ來スモノトス

以上述ヘシ如ク財貨ノ價格ハ需要供給ノ平均ニ因リテ定マルモノナレトモ如何ナル點ニ於テ需要供給カ常ニ相平均セントスルカハ財貨ノ種類ニ依リテ同一ナラス財貨ノ種類トハ即チ第一ニ隨意ニ其數量ヲ増加シ能ハサル財貨第二ニ生産費ヲ増加セスシテ其數量ヲ増加シ得ヘキ財貨第三ニ生産費ヲ増加スル

ニ非サレハ其數量ヲ増加シ能ハサル財貨是ナリ

第二節 隨意ニ其數量ヲ増加シ能ハサル財貨ノ價格

此種類ニ屬スヘキ財貨ニハ或ハ絕對的ニ其數量ヲ増加シ能ハサルモノアリ例
 (ハ古代ノ器物又ハ土地ノ如キ是ナリ或ハ其數量ノ増加ニ自ラ制限アルモノ
 アリ例ヘハ現存セル名家ノ書畫ノ如キ無數ニ増加スヘキモノニ非サルナリ或
 ハ數多ノ時日ヲ待タサレハ其數量ヲ増加スルコト能ハサルモノアリ例ヘハ米
 麥其他ノ穀物ノ如キ是ナリ其他如何ナル財貨ト雖モ需要俄ニ増加スルトキハ
 一時此種類ニ屬スヘキモノナレトモ工業品ノ如キハ供給ノ増加速ナルカ故ニ
 此種類ニ屬スル場合甚タ稀ナリトス
 此ノ如ク數量ニ制限アル財貨ニ於テ需要若シ供給ヨリ大ナルトキハ其平均
 需要ノ減少即チ價格ノ上騰ニ因リテ之ヲ得ルモノトス其最モ簡單ナル實例ハ
 彼ノ羅賣ニ於テ之ヲ見ルナリ而シテ羅賣ニ於テ財貨ノ賣買セラレル價格ハ第
 一級即チ最後ノ需要者カ其財貨ニ與フル主觀的價值ト第二級ノ需要者カ與ス

ル主觀的價值トノ間ニ在ルモノトス又羅賣ノ如ク其供給者一人需要者數人ナ
 ルニ反シ需要者供給者共ニ多數ナル場合ニ於テモ亦需要カ供給ニ超過スルト
 キハ價格ノ上騰ト共ニ需要者ノ減少ヲ來シテ始メテ需要供給相平均スルコト
 ヲ得ルナリ穀物ノ如キ必需品ニ至リテハ需要減少ノ速度遲緩ナルカ故ニ大ニ
 價格ノ上騰ヲ來スナリ
 專賣ニ屬スル財貨モ亦其數量ニ制限アルモノト謂フヘキナリ何トナレハ其數
 量ノ増加ハ全ク專賣權所有者ノ意思ニ因ルモノナレハナリ故ニ此種ノ財貨ニ
 シテ其數量増加セサルニ於テハ其價格ノ定マルハ前段ニ述ヘタル財貨ニ同シ
 トス

隨意ニ其數量ヲ増加シ能ハサル財貨ノ價格ノ上騰スル程度ハ其財貨ニ對スル
 欲望ノ強弱之ニ代用シ得ヘキ財貨ノ有無等ニ因ルモノトス即チ財貨ニ對スル
 欲望強クシテ財貨ノ數量多カラサレハ其價格ハ大ニ上騰スヘキモ其欲望薄弱
 ナルトキハ數量僅少ナルモ價格ノ上騰スルコト少シトス又一ノ財貨ニシテ他
 ニ之カ代用ヲ爲ス財貨アルトキハ其價格ハ其代用物ノ影響ヲ被ルコト少カラ

ス例ハハ穀物ノ價格ハ互ニ相抑制スルノ效力アルカ如キ是ナリ
土地ノ價格モ亦此種類ニ屬スヘキトス即チ人口増殖シテ土地ニ對スル需要増
加スルト共ニ土地ノ價格ハ勢ヒ上騰セサルヲ得サルナリ而シテ此現象ハ特ニ
都府ニ於テ顯著ナリトス

第三節

生産費ヲ増加セシテ其數量ヲ増加シ得ヘキ財貨ノ價格

此種類ニ屬スル財貨ノ價格ハ常ニ其生産費ニ等シカラントスルノ傾向ヲ有ス
ルモノニシテ茲ニ所謂生産費トハ一ノ財貨ヲ生産シテ之ヲ市場ニ出スマラニ
要スル諸般ノ經費ヲ合計セルモノヲ謂フ此第二種ノ財貨ノ價格ニシテ生産費
ニ等シキトキハ之ヲ其自然價格ト稱ス而シテ此第二種ノ財貨ノ價格ハ需要供
給ノ關係ヨリシテ自然價格ヨリ或ハ高ク或ハ低ク常ニ變動スルヲ免レズト雖
モ常ニ自然價格即チ生産費ニ等シカラントスルノ傾向ヲ有スルモノトス若シ
一旦其價格ニシテ生産費ヨリモ大ナリトセンカ生産者ハ資本及ヒ勞動ヲ増加

雜 報

(正誤 第七號以下雜報頁附三誤アリ仍テ)

三七ヲ二五ト改メ以下之ニ準ス

○詐害行為ニ因ル受益者及ヒ轉得者ノ善意ノ證明 債務者カ債權者ヲ害ス
ルコトヲ知リテ法律行為ヲ爲シタルトキハ其受益者又ハ轉得者ノ善意惡意ハ
何人カ證明ノ責ニ任スヘキカ大審院ハ曰ク民法第四百二十四條ニハ「債權者ハ
債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行為ノ取消ヲ裁判所ニ
請求スルコトヲ得」トアリテ債務者ニ惡意即チ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲
シタル行為アルコトヲ認ムレハ債權者ハ其行為ノ廢罷ヲ請求スルコトヲ得可
キ規定ナルニヨリ法律ハ債務者ノ行為ヲ以テ其相手方即チ受益者又ハ轉得者
ニ於テモ其情ヲ知リテ爲シタルモノト一應ノ推定ヲ爲シ得キモノト認メ
タルモノナルコト法文上自ラ明ナリ然ラハ右ノ推定ニ反スル本條但書ノ場合
ハ受益者又ハ轉得者ニ於テ其情ヲ知ラザリシトノ舉證ヲ爲スノ責任アルコト
モ亦自ラ明瞭ニシテ是レ本院判例ノ是認スル所ナリト(大審院明治三十六年
十一月十六日第二民事部判決) 第五百三十三號土地買賣

○講談會 本月十七日本校第一講堂ニ於テ講談會ヲ開キ左ノ三氏順次講演セラレタリ

統計學ノ話

法學士 高野岩三郎

戰爭ニ付テ

法學博士 寺尾

國際公法ノ基礎ヲ論シテ戰爭ノ地位ニ及フ

法學士 秋山雅之介

高野學士ハ往時ノ統計學者ノ實話ヲ例舉シ統計學ナルモノハ單純ナル計算若クハ見積ニ依ル數字ヲ知ルノ學ニ非ヌ又或計數ヲ知ルノ術ニモ非スシテ正確ナル觀察ト引續キ爲ス所ノ正確ナル計算トニ依リ種種ノ數字ヲ得テ以テ人間ノ社會的生活ノ狀態ヲ知ル所ノ學問ナリト述ヘ獨逸ニ於ケル職業及ヒ學業調査ノ組織並ニ其結果ニ説キ及ヒ其效驗ノ著大ナル旨ヲ述ヘ次ニ寺尾博士ハ病ヲ勉メテ演壇ニ立テ先ツ戰爭ノ何モノナルカヲ述ヘ理論上ヨリ戰爭是認論者ノ論據ヲ衝キテ一之ヲ駁シ唯平和ヲ破壞スル所ノモノニ向ヒテハ正當防衛トシテ最後ノ手段タル戰爭ノ手段ヲ採ルコトハ國際法上認容スル所ナレハ他

國ノ行動カ自國ノ生存ヲ危ウスル場合ニ於テハ戰爭ヲ爲スモ亦已ムヲ得サル所ナリト述ヘ次ニ秋山學士ハ臨時登壇シ國際公法ノ性質ヨリ説キ起シ其基礎ニ關スル諸種ノ學說ヲ舉ケ自家ノ意見トシテ國際公法ノ基礎ハ之ヲ常識ニ置カサルヘカラスト斷定シ戰爭ノ哲學上ニ於ケル可否ノ論ヨリ人間ハ平和的ニシテ戰爭的ナルカ故ニ今日ニ在リテハ到底戰爭ヲ廢スヘカラスト述ヘ喝采ノ裡ニ閉會ヲ宣告シテ降壇セラレタリ當日ハ例ニ依リ梅總理松本主幹佐々木主事等臨席セラレ聽衆亦堂ニ溢レ非常ノ盛會ナリキ尙ホ法學士安達峯一郎氏ハ「露國外交史ノ一節ヲ演題ノ下ニ講演セラルル筈ナリシモ俄ニ差支アリテ闕席セラレタルハ甚タ遺憾ナリシ

○昨年中ノ物價 昨年中ノ東京重要四十八種ノ物價左ノ如クナリシト云フ但三十四年七月ノ物價ヲ百トシテ算出シタルモノナリ(東洋經濟新報社調査)

月次	食料品	原料品	製造品	平均
一月	一一三八	九八五	九九一	一〇三一
二月	一一三六	一〇二二	九九七	一〇四五

三月	一二三一	一〇三二	九八六	一〇五一
四月	一二四六	一〇二六	九七〇	一〇四八
五月	一二七〇	一〇二〇	九四九	一〇四九
六月	一二七五	一〇一八	九八三	一〇五六
七月	一二二四	一〇一六	九八二	一〇六六
八月	一二九九	一〇二三	九九七	一〇六九
九月	一二九〇	一〇三九	九九六	一〇七四
十月	一二六九	一〇六一	一〇二二	一〇八二
十一月	一二六九	一〇六六	一〇一八	一〇八六
十二月	一二六七	一〇六二	一〇一七	一〇八三
平均	一二六七	一〇三〇	九九一	一〇六一

(注 意) 校外生月謝金納付ノ際ハ必ス本紙ヲ切抜キ居所、氏名及爲替番號、金額、並ニ月謝金ノ月別若クハ何月分ヨリ何月分迄ト記入シ爲替券ニ添附スルモノトス

納付書

爲替番號

一金

但三十七年度第一學年 月分月謝金

右納付候也

居所

明治三十年

月 日

法政大學會計局御中

納付書

爲替番號

一金

但三十七年度第一學年 月分月謝金

右納付候也

居所

明治三十年

月 日

法政大學會計局御中

法學志林

一部定價金十圓 郵費一圓
十部定價金九十圓 郵費十圓
校友、定購、校外定購、二十部
稅共一圓 共十一部 十部前金郵

第五十二號目次 (二月十五日發行)

○最近判例批評(其十六)

法學博士 梅謙次郎

○特種禁止問題

辯護士 信岡雄四郎

志林

○國家有機體說

法學士 寬克彦

○維新以後我國法學通勢

法學士 加藤正治

纂論

○露國新刑法

法科大學生 佐竹三吾

解疑

○發起人方會社ノ爲メニ爲シタル行爲ノ會社ニ其效力ヲ及ボス理由

法學士 松本 蒸治

○一部主權國ノ意義

法學士 秋山雅之介

寄書

○廣告取消ノ效果ヲ論ス

龍美房太郎

判例 ○大審院新判決例 三十件

其他雜報、記事等

發行所

司法部指定

私立法政大學

明治三十七年一月二十一日印刷
明治三十七年一月二十四日發行

(定價金貳拾錢)

編輯者

東京市牛込區牛込北町十番地

萩原敬之

印刷者

東京市牛込區矢來町三番地

小宮山信好

印刷所

東京市芝區西ノ久保明會町十一番地

金子活版所

東京市總町區富士見町六丁目十六番地

發行所

司法部指定

法政大學

(電話番町百七十四番)

明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可
每月十四日三十五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行